

関連プログラム

○講演会「死をめぐる奇想」○

講師：小池寿子氏（國學院大学教授）

日時：4月16日（日）  
午後2時から3時30分（開場は午後1時30分）

会場：宇都宮美術館 講義室  
無料、先着170名

○担当学会員によるギャラリートーク○

日時：3月25日（土）、4月8日（土）、4月22日（土）  
5月6日（土） いずれも午後2時から

※金曜チケットをお求めのうえ、中央ホールにお集まりください。

宇都宮美術館  
Utsunomiya Museum of Art

〒320-0004 栃木県宇都宮市長岡町1077番地  
TEL.028-643-0100(代) / FAX.028-643-0895  
ホームページアドレス http://u-moa.jp

交通のご案内



- JR東京駅から東北新幹線「JR宇都宮駅」下車（約50分）
- JR宇都宮駅西口5番/バス乗り場から 関東バス「豊橋台・帝京大学経由宇都宮美術館」行き終点下車（約25分）
- 東北自動車道「宇都宮インターチェンジ」から約10km、  
「高沼インターチェンジ」から約14km
- 北関東自動車道「宇都宮上三川インターチェンジ」から約19km

路線バス時刻表

JR宇都宮駅	宇都宮美術館	宇都宮美術館	JR宇都宮駅
△6:00	6:24	△6:26	6:50
6:20	6:44	6:46	7:10
8:00	8:28	▲7:06	7:30
8:40	9:07	8:31	8:58
9:15	9:42	9:10	9:37
9:55	10:22	9:45	10:12
10:22	10:49	10:25	10:52
11:15	11:42	10:55	11:22
11:40	12:07	11:45	12:12
13:15	13:42	12:15	12:42
14:15	14:42	13:50	14:17
15:05	15:32	14:50	15:17
15:55	16:22	15:35	16:02
16:45	17:14	16:32	16:59
17:22	17:51	17:17	17:44
17:50	18:19	18:00	18:27
▲18:00	18:29	18:22	18:49
18:45	19:14	▲18:32	18:59
20:50	21:17	19:17	19:44
21:30	21:54	21:19	21:43
		21:56	22:20



Fantastic Art in Belgium



# Fantastic Art in Belgium

THE 20th ANNIVERSARY

ヒエロニムス・ボス工房《トゥッダダルの幻視》（部分）  
1490～1500年頃、油彩・板、ラリロ・ガルデアノ財団  
©Fundación Lázaro Galdiano

2017年3月19日（日）※5月7日（日）

開館時間＝午前9時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで）  
休館日＝毎週月曜日（ただし3月20日、5月1日は開館）  
祝日の翌日（ただし5月6日は開館）

主催＝宇都宮美術館、東京新聞  
後援＝ベルギー大使館、ベルギー・フランダース政府観光局  
協賛＝大日本印刷  
協力＝エルフランス航空 / KLMオランダ航空  
学術協力＝ベルギー国立図書館

観覧料＝一般 1000円（800円）  
大学生・高校生 800円（640円）  
中学生・小学生 600円（480円）

- ※（ ）内は20名以上の団体料金
- ※身体障がい者手帳、療育手帳、精神障がい者保健福祉手帳の交付を受けている方とその介護者（1名は無料）
- ※宇都宮市在住または在住の高校生以下は無料。
- ※毎月第3日曜日（3月19日、4月16日）は「家族の日」です。高校生以下を含むご家族で来館された場合、企画展観覧料が一般・大学生は半額、高校生以下は無料。
- ※4月1日（土）「市民の日」は宇都宮市民は無料。

④レオ・コペール《ティンバー》  
2006～10年、ミクストメディア、作家蔵  
collection of the artist / CSADAM Leo Copers  
photo: multiim

栃木県立美術館のご案内

『観後の日本画』 2月25日時から4月2日まで  
『まなざしの洋画史 近代ヨーロッパから現代日本まで』  
茨城県近代美術館・栃木県立美術館所蔵品による  
4月22日時から7月2日まで

詳細は「栃木県立美術館」にお問い合わせください。  
tel. 028-621-3566

## 展 奇想の系譜

Fantastic Art in Belgium  
ボスからマグリット、  
ヤン・ファン・アールまで

宇都宮美術館開館20周年記念

宇都宮美術館  
Utsunomiya Museum of Art  
東京新聞



① ヒエロニムス・ボス工房《トッスグダルの幻視》  
1490～1500年頃、油彩・板、ラザロ・ガルディアーノ財団  
©Fundación Lázaro Galdiano

② ヤン・マンティン《パソラマ風景の中の聖アントニウスの誘惑》  
16世紀、油彩・板、ド・ヨンクール画廊

③ ピーテル・ブリューゲル(父)原画《マレヘムの魔女》  
1569年頃、エングレーヴィング・紙、ベルギー王立図書館

④ ベーテル・ハウル・ルーベンス原画  
《側と顔の部分のある、左の顔と手を二方向から見た図》  
1630年頃、エングレーヴィング・紙、ベルギー王立図書館

現在のベルギー・フランドル地方とその周辺地域では、中世末期から発達してきた写実的描写の伝統の上に、幻想絵画(Fantastic Painting)というカテゴリーの絵画が発展してきました。空想でしかありえなかった事物を視覚化した想像画(Imaginary Painting)でもあり、フランドルの画家たちが描いた悪魔や怪物といった異形のものゝ姿は写実的であっただけに「本物」と感じさせる迫真性に満ちていました。

18世紀にかけて自然科学の発達とともに啓蒙思想がヨーロッパを席卷するなか、不可解なものは解明されてゆき、心の闇には光が当てられるようになります。美術の世界では、理想的な古代風景を合成するものや、実景に架空の要素を加えたカプリッチョ(奇想画)といった風景画が描かれるようになりました。

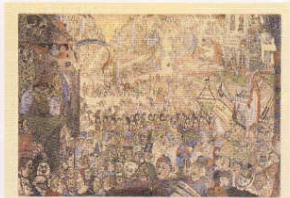
かつての幻想絵画の伝統が引き継がれるのは、産業革命後の19世紀、近代化・都市化が進み、人間疎外や逃避願望を背景として形成された象徴主義においてでした。画家たちは心の中の世界を、あるいは心の闇を、自らの作品として表現し、個性と独自性を追求する取り組みの中で数多くの秀作を生み出しました。

本展では、ベルギー・フランドル地域において幻想的な世界を作り出した一連の流れを、15、16世紀のフランドル絵画から、現代のコンテンポラリー・アートにいたるまで国内外の作品約120点によって紹介します。およそ500年にわたる「奇想」の系譜をお楽しみください。

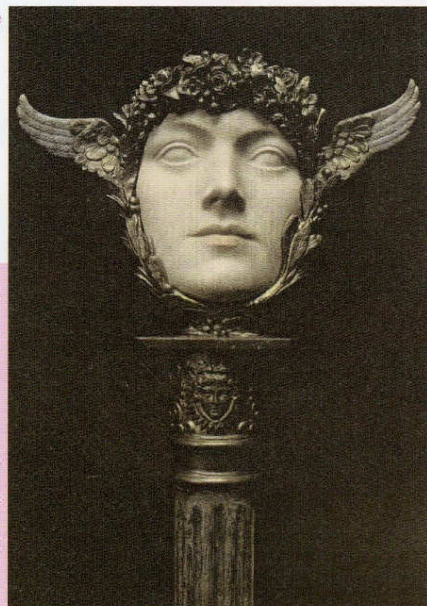


②

④



⑦



⑧



# Fantastic Art in Belgium



⑩

⑪

⑫

⑩ ルネ・マグリット《大家族》  
1963年、油彩・キャンヴァス、宇都宮美術館  
©ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2017 G0748

⑪ マルセル・マリエン《見つからないもの》レブリカ  
オリジナル・1937年、オブジェ、ハーテルノスル コレクション  
©Marcel Mariën, L'introuvable - S&S&M, Bruxelles & JASPAR, Tokyo, 2017 G0748  
photo:Dirk Pauwels

⑫ トマス・ルイイ《生き残るには脳が足りない》  
2009年、ブロンズ、ロドルフ・ヤンセン画廊  
Rudolph Thomas Laroui, Brussels, courtesy of Rodolph Janssen  
photo: Philippe D'Houart

⑬ ヤン・ファーブル《第16巻》  
2010年、ブロンズ、個人蔵  
©Jim Fabre-Chapter 16 - S&S&M, Bruxelles & JASPAR, Tokyo, 2017 G0748  
photo:Dirk Pauwels

⑤ フェリシアン・ロップス原画《結婚政治家》  
1896年、エングレーヴィング・紙、フェリシアン・ロップス美術館

⑥ フェリシアン・ロップス《舞踏会の死神》  
1865～75年頃、油彩・キャンヴァス、クレラー＝ミュラー美術館

⑦ ジェームズ・アンソール《キリストのブリュッセル入城》  
1898年、エッチング・水彩・紙、愛宕市立美術館

⑧ フェルナン・カノッパフ《仮面》  
1897年、彩色写真(撮影:アレクサンドル・エブルーツ)、ベルギー王立図書館

⑨ ジャン・デルヴィル《赤死病の仮面》  
1890年頃、木炭・バスドル・紙、フィリップ・セルクコレクション